

災害メモリアルKOBÉ

なぎさ小学校 五年三組 池野 光一

ぼくは、今十さいです。阪神淡路大震災を
知りません。岸本くるみさんは、当時小学二
年生だっ、たそうです。その時のことを、話し
てくれました。

一九九五年一月一七日五時四六分。それは
一生心に残る日だそうです。いつもの町が焼
け野原になっ、たり、高速道路がたおれたり、
たった十秒ほどのゆれが、神戸の町をひく
りかえじたのです。

水・電気・ガスが止まり、すごく不便なく
らしをしていたそうです。今は、ポタナーつ
で三つても出るけど、当時はそんなことはで
きません。水は、給水車の所まで行か
なければならなかつたそうです。

加れまの申にうもれた人は、近所の人たち
の協力で助け出されました。警察の人たちに
助けられたのは、ごく一部の人です。ぼくは、
いざとなつた時のために、あいつ等をして

つながりをつくれたらいいと思います。

当時、食べ物がほとんどありませんでした。お店もつぶれてしまい、物を買えません。すると、全国からボランティアが来てくれました。一三八万人の人が、町の人に物を持ってきてくれました。その時、世界は自分たちとつながり、ていることに気が付いたのかも知れません。

岸本くるみさんは、

「自分の周りにはつながり、ている。」

と、言っていました。家族・友達などは、自分のことを支えてくれると思いましたが、話を聞いて、自分の周りの物を大切に、近所の人との関係をつくることだと思えます。